

令和元年度

薬局ビジョン実現に向けた
薬剤師のかかりつけ機能強化事業

(令和元年度薬剤師生涯教育推進事業)

報告書

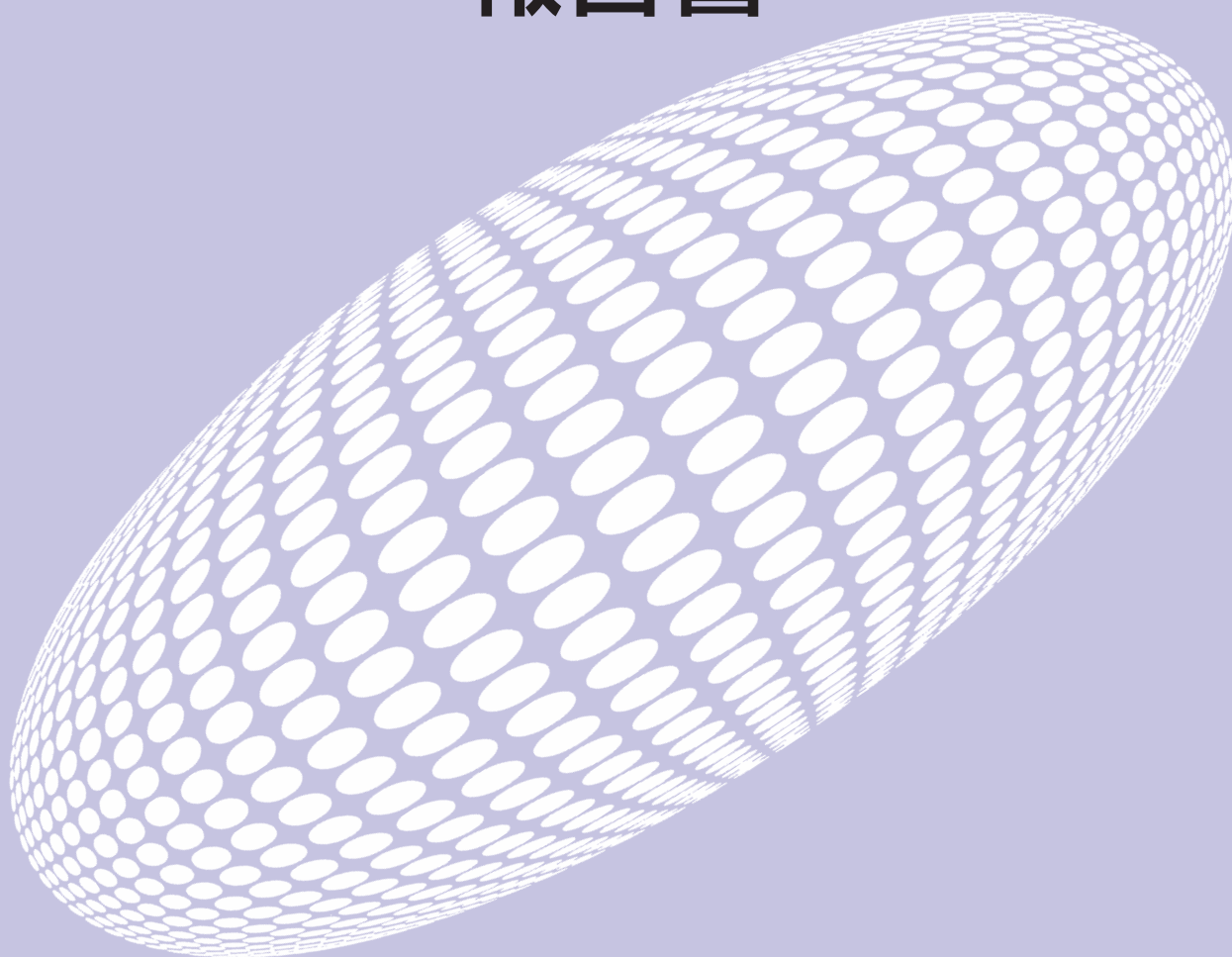
令和2年3月



公益社団法人

日本薬剤師会

令和元年度 薬局ビジョン実現に向けた 薬剤師のかかりつけ機能強化事業 (令和元年度薬剤師生涯教育推進事業) 報告書



令和2年3月



公益社団法人

日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association

**令和元年度 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
(令和元年度薬剤師生涯教育推進事業)
報告書 目次**

I 事業の概要	1
1. 本年度事業の位置づけ	1
2. 事業の目的	1
3. 事業の概要	2
4. 実施体制	2
(1) 事業担当者	2
(2) 会議体	2
(3) 会議の開催状況	6
5. 事業実施期間	6
II 薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議の開催	9
1. 全国会議の目的	9
2. 出席者	9
3. プログラムの検討	9
4. プログラム	9
III 指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）の開催	14
1. 指導者研修会の開催方針・枠組みの検討（指導者研修委員会）	14
2. 研修会内容の検討（ワーキンググループ）	15
3. 都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげる方策の検討（指導者研修委員会）	17
4. 研修会の開催	19
(1) 研修会概要	19
(2) 研修会プログラム及び講師、ファシリテーター	19
(3) 研修会の開催	21
(4) 受講者への事後課題	21
IV 事業の評価	27
V 今後の事業展開について（都道府県薬剤師会等における研修機会の充実）	33
＜巻末資料＞	
資料1 令和元年度次世代薬剤師指導者研修会 講義・ワークショップ資料	35
資料2 令和元年度次世代薬剤師指導者研修会 研修会運営リソース	223
資料3 令和元年度次世代薬剤師指導者研修会 提出された事後課題	231

I 事業の概要

1. 本年度事業の位置づけ

日本薬剤師会は、厚生労働省（医薬・生活衛生局総務課）の「薬剤師生涯教育推進事業」の実施法人として、厚生労働省の実施要綱【資料1】に則り、「令和元年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を計画・実施した。全体構想としては図1のとおりである。

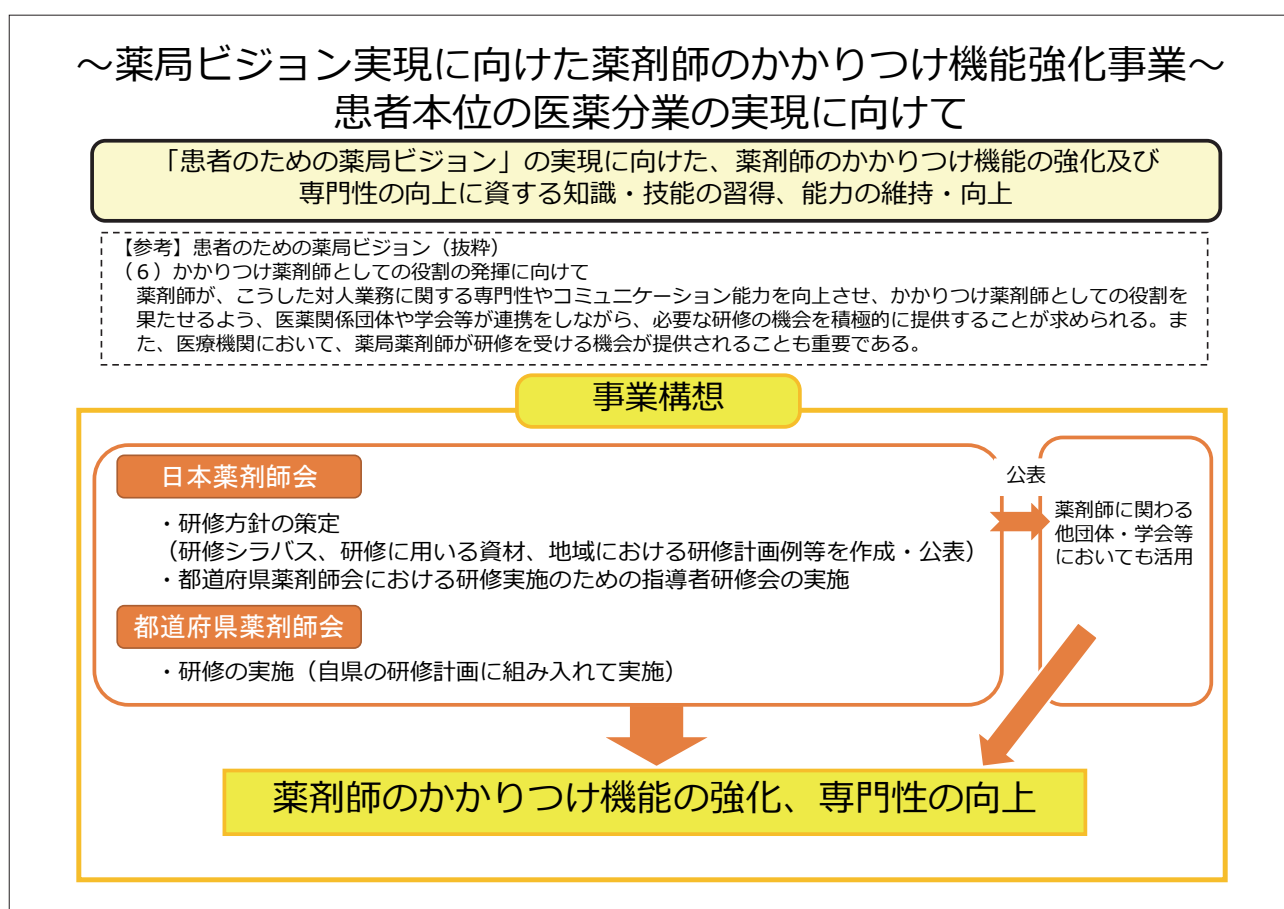


図1 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業 全体構想

2. 事業の目的

本事業は、「患者のための薬局ビジョン」（厚生労働省、平成27年10月23日）を踏まえ、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的とした将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成等を行い、薬剤師の職能が真に、患者に提供される医療の向上と、患者の満足度に貢献することを目的としている。

こうした事業の目的を受け、本年度事業では、昨年度に日本薬剤師会で実施した平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業（平成30年度薬剤師生涯教育推進事業）を踏まえた「都道府県薬剤師会や地域薬剤師会等での研修の展開」、「薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上」を目的とした。

3. 事業の概要

本事業は、平成 29 年度より薬局ビジョンの実現に向け薬剤師が対人業務に関する専門性等を向上させ、かかりつけ薬剤師としての役割を發揮できるよう都道府県薬剤師会等と連携して事業を行っており、昨年度事業では「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」を作成するとともに、将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成等を行ってきた。

こうした事業背景等を踏まえて、本年度事業では昨年度事業の展開を図るため都道府県薬剤師会の担当者を集め、全国会議を実施して本事業の趣旨説明をするとともに、昨年度事業で作成した「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」の活用について説明を行った。

また、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目指し、将来の地域の指導的立場を担う若い世代の育成のための指導者研修会(次世代薬剤師指導者研修会)を開催し、都道府県薬剤師会における研修イメージの共有、研修プログラムの作成、地域における研修においての到達目標の共有などを図った。

今回の事業では、特に以下の点の研修内容を強化することとした。

- ①昨年 12 月に公布された薬機法改正における認定薬局制度においても重要となる薬局と医療機関との連携、いわゆる「薬薬連携」を推進するための内容やがん薬物療法における対応
- ②患者数が多く、今後、薬物療法を適切に行うことが重要となる生活習慣病関連の薬物療法のうち、本年度は糖尿病に関する内容
- ③薬剤師として今後知識が求められる性と避妊に関する内容

薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業の実施概要及び都道府県薬剤師会における研修展開イメージは図 2 のとおり。

4. 実施体制

本項では採択日以降に行った研修プログラムの作成や次世代薬剤師指導者研修会の検討体制を記す。(全国会議の検討体制は「II 薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議の開催」を参照)

(1) 事業担当者

担当副会長 : ○田尻 泰典(副会長 医薬分業担当)
乾 英夫(副会長 生涯学習担当)

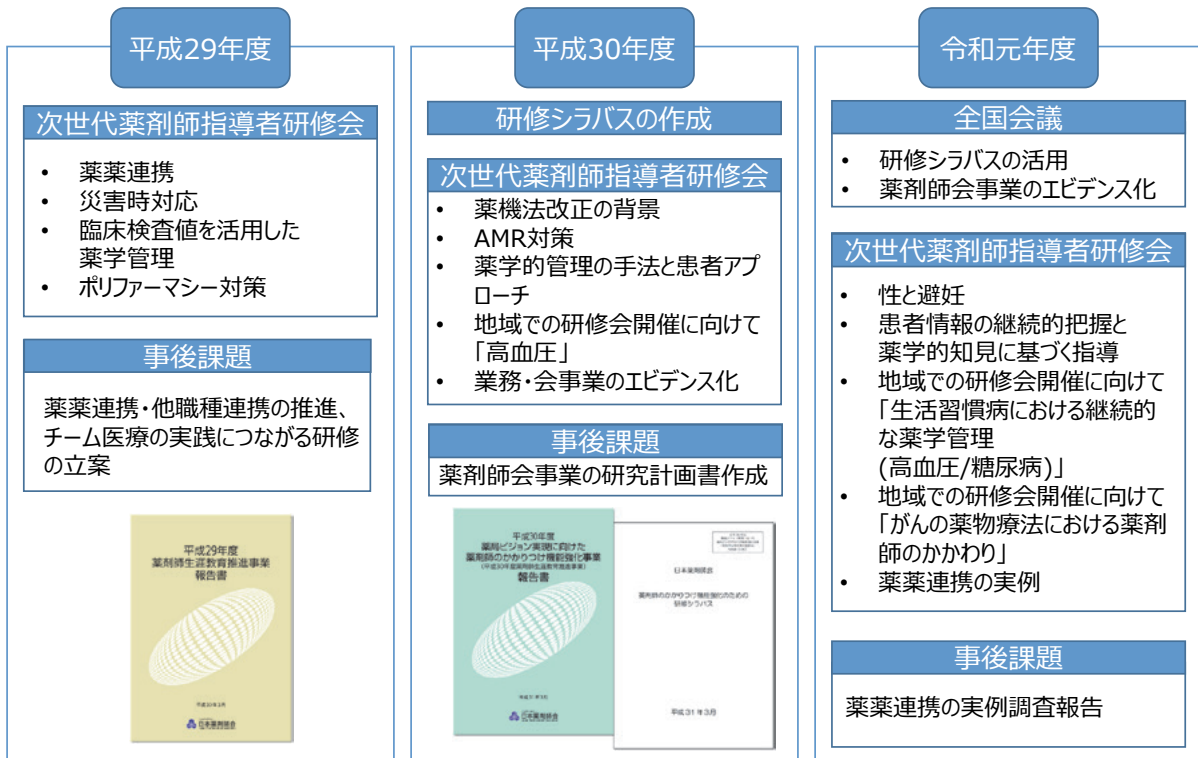
担当常務理事: ○豊見 敦(常務理事 医薬分業担当)
吉田 力久(常務理事 医薬分業/地域医療・保健担当)
渡邊 大記(常務理事 医薬分業担当)

○宮崎長一郎(常務理事 生涯学習/調剤業務担当)
島田 光明(常務理事 調剤業務/地域医療・保健/生涯学習担当)
亀井美和子(常務理事 生涯学習/医薬分業担当)

(2) 会議体

本事業の実施にあたっては、各担当常務理事による「事業実施委員会」を組織し、事業実施

薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業



都道府県薬剤師会における研修展開イメージ

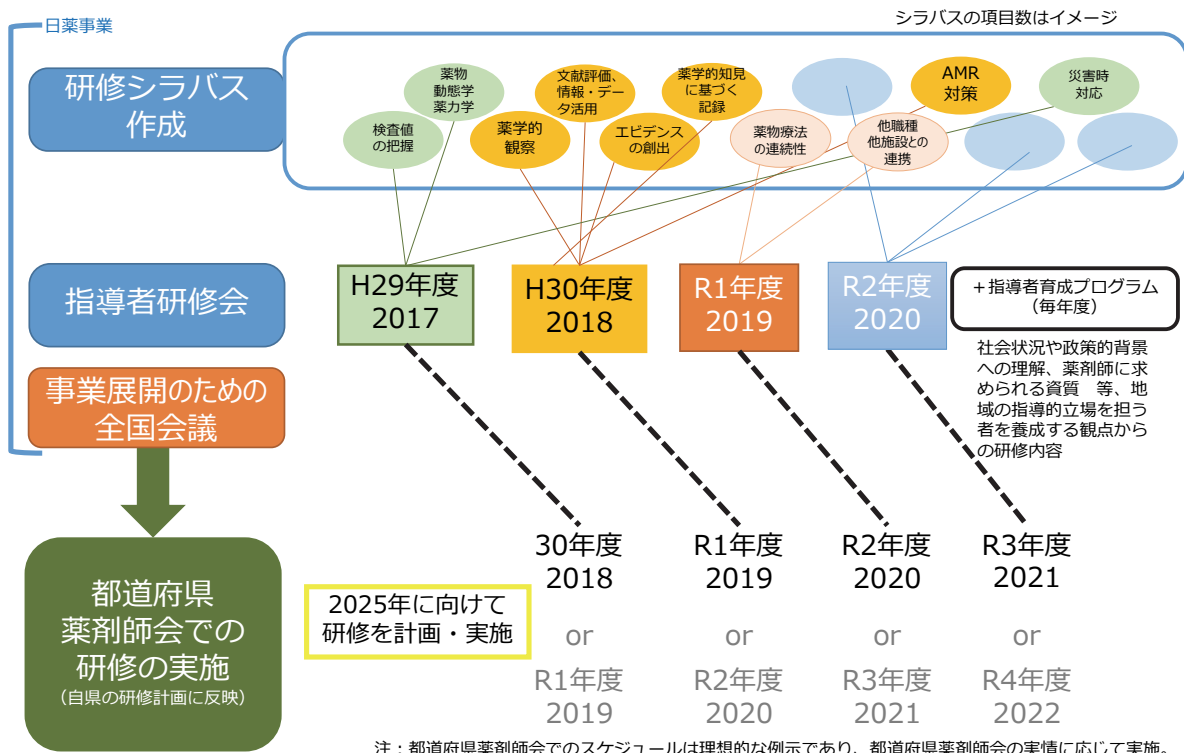


図2 実施概要及び都道府県薬剤師会における研修展開イメージ

委員会の下に、関係団体・学術関係者等外部有識者からなる「研修指導者委員会」を設置し、研修プログラム骨子等の作成等を行った。

さらに「研修指導者委員会」の下に、「入退院時の薬薬連携及び継続的な薬学的管理」、「避妊など性に関する知識の向上及び患者の心理状況に応じた情報提供」を踏まえた具体的な研修内容等を検討するため、各担当常務理事を配置したワーキンググループを設置した。

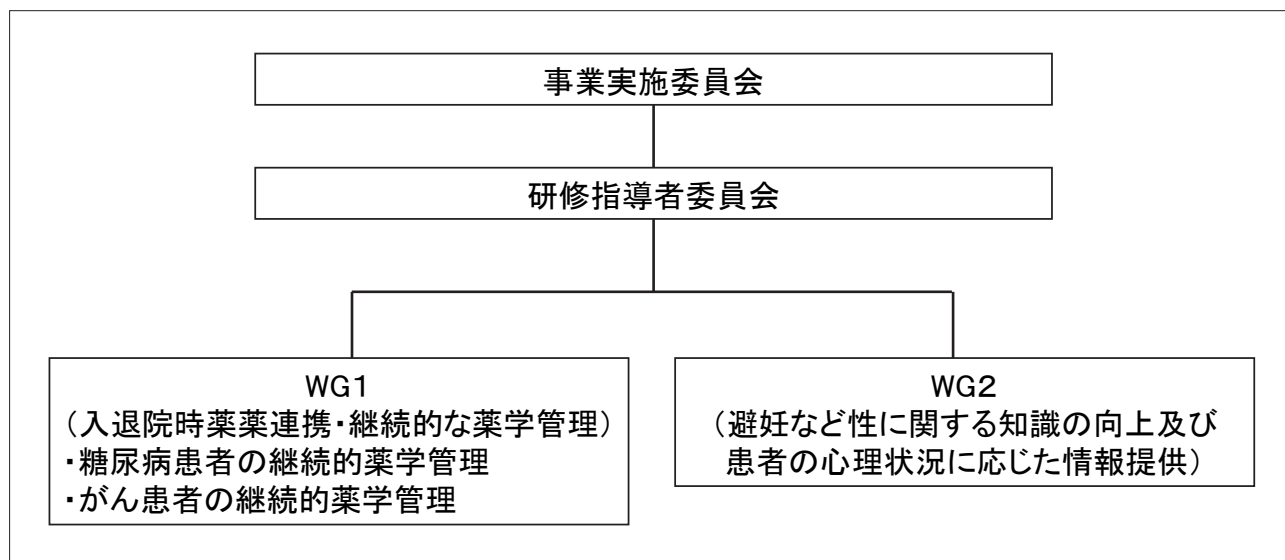


図3 委員会構成図

◆事業実施委員会

構成員：

- | | |
|------------|-------------------------|
| 医薬分業対策委員会 | ○豊見 敦、吉田 力久、渡邊 大記、亀井美和子 |
| 地域医療・保健委員会 | ○吉田 力久、島田 光明 |
| 調剤業務委員会 | ○島田 光明、宮崎長一郎 |
| 生涯学習委員会 | ○宮崎長一郎、亀井美和子、島田 光明 |

①指導者研修委員会

指導者研修委員会には、関係団体・学会のほか研修内容に応じて有識者に参画を求め、指導者研修委員会が企画したプログラム及び2つのワークショップについて具体的な検討を行うため、2つのワーキンググループを設置した。

また、ワーキンググループ1（入退院時薬薬連携、継続的な薬学管理）に関しては、糖尿病患者の継続的な薬学管理、がん患者の継続的な薬学管理を検討するにあたり専門性が問われることから、検討内容に応じてワーキング構成員の構成を変更している。

【指導者研修委員会】

構成員（敬称略）：

- 豊見 敦（日本薬剤師会 常務理事）
- 宮崎長一郎（日本薬剤師会 常務理事）
- 栗原 健（日本病院薬剤師会 専務理事）

厚田幸一郎（日本くすりと糖尿病学会 理事長）
加藤 裕芳（日本臨床腫瘍薬学会 理事長）
出石 啓治（日本医療薬学会 理事）
（オブザーバー：厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課）

【ワーキンググループ1】

研修内容：

- ・糖尿病患者の継続的な薬学管理
- ・がん患者の継続的な薬学管理
- ・入退院時の薬薬連携

○糖尿病患者の継続的な薬学管理

構成員（敬称略）：

- 豊見 敦（日本薬剤師会 常務理事）
- 宮崎長一郎（日本薬剤師会 常務理事）
- 島田 光明（日本薬剤師会 常務理事）
- 鶴飼 典男（日本薬剤師会 理事）
- 高松 登（日本薬剤師会 理事）
- 清水 秀行（日本薬剤師会 調剤業務委員会 委員長）
- 出石 啓治（日本薬剤師会 調剤業務委員会 副委員長）
- 篠原久仁子（日本くすりと糖尿病学会）
- （オブザーバー：朝倉俊成（日本くすりと糖尿病学会 副理事長））

○がん患者の継続的な薬学管理、入退院時の薬薬連携

構成員（敬称略）：

- 豊見 敦（日本薬剤師会 常務理事）
- 宮崎長一郎（日本薬剤師会 常務理事）
- 島田 光明（日本薬剤師会 常務理事）
- 崔 吉道（日本薬剤師会 理事）
- 村杉 紀明（日本薬剤師会 医薬分業対策委員会 副委員長）
- 松井 礼子（日本臨床腫瘍薬学会 副理事長）
- 出石 啓治（日本医療薬学会 理事）
- 荒木 隆一（日本病院薬剤師会 理事）

【ワーキンググループ2】

研修内容：避妊など性に関する知識の向上及び患者の心理状況に応じた情報提供

構成員（敬称略）：

- 森 昌平（日本薬剤師会 副会長）
- 宮崎長一郎（日本薬剤師会 常務理事）

吉田 力久（日本薬剤師会 常務理事）
亀井美和子（日本薬剤師会 常務理事）

(3) 会議の開催状況

会議の開催状況は以下のとおり。会議を開催するほか必要に応じ電子メールによる協議を行った。

①事業実施委員会

令和元年 10 月 23 日

②指導者研修委員会

【指導者研修委員会】

令和元年 12 月 19 日

【ワーキンググループ 1】

令和元年 12 月 11 日（議題：糖尿病の継続的な薬学管理）

令和元年 12 月 17 日（議題：がん患者の継続的な薬学管理、入退院時の薬薬連携）

【ワーキンググループ 2】

令和元年 11 月 5 日

令和元年 12 月 17 日

5. 事業実施期間

令和元年 9 月 30 日（採択通知日）～令和 2 年 3 月 31 日

（全国会議の開催、薬剤師に対する研修実施のための体制整備、薬剤師に対する研修の実施（都道府県薬剤師会等における事業成果の活用）は、本事業実施期間とは関連しない）

薬剤師生涯教育推進事業実施要綱

平成22年4月22日付薬食発0422第12号医薬食品局長通知
最終改正：令和元年6月27日薬生発0627第6号

1. 目的

医療技術の高度化・専門分化が進展し、一方で少子高齢化に伴い人口構造が変化する中、より良い医療を患者に提供していくためには、薬剤師の機能強化・専門性向上に資するために必要な知識及び技能を習得させる等の生涯教育が重要である。

本事業ではそれらにかかる研修プログラムを作成及び公表することで、地域における薬剤師の生涯研修につなげ、薬剤師の機能強化・専門性向上を図ることを目的とする。

2. 事業内容

薬剤師の機能強化・専門性向上に資するために必要な知識及び技能を習得させる研修プログラムを作成し、研修講師の育成を目的とした当該プログラムに基づいた研修を実施し、当該プログラムの実用性を確認した上で、地域における実務研修の実施のための当該プログラムを公表する。

なお、研修内容は、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえ、かかりつけ機能を強化するための分野又は高度薬学管理機能に資する薬剤師の機能強化・専門性向上を踏まえた内容とする。

具体的には、入退院時の医療機関及び薬局との薬薬連携、避妊など性に関する知識の向上及び患者の心理状況に応じた適切な情報提供、調剤時に限らず必要に応じた継続的な薬学的管理に関する内容を含めること。

3. 実施主体

本事業の実施主体は、別に定める薬剤師生涯教育推進事業実施法人公募要領により、採択された法人とする。

4. 実施方法

事業の実施に当たっては、薬剤師の機能強化・専門性向上にかかる研修プログラムを作成するとともに、研修講師の育成を目的とした本プログラムに基づいた研修を実施し、本プログラムの実用性を確認した上で、地域における実務研修の実施のための本プログラムを公表するものとする。

5. 経費負担等

国は、予算の範囲内で、薬剤師生涯教育推進事業に係る経費について別に定める基準（医療関係者研修費等補助金及び臨床研修費等補助金交付要綱）により補助するものとする。

6. 実施期間

法人採択日 ～ 令和2年3月31日

II 薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議の開催

1. 全国会議の目的

平成 30 年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業を踏まえ、同事業を都道府県薬剤師会で展開するための方策等を伝達することを目的とした。

2. 出席者

地域での同事業の展開を図るために都道府県薬剤師会に次の担当者の出席を依頼した。(各都道府県薬剤師会 3 名まで)

- ・会務・業務の指導的立場、意思決定にかかわる方
- ・医薬分業対策担当役員
- ・生涯教育担当役員

3. プログラムの検討

以下の医薬分業対策委員会担当及び生涯教育委員会担当間で協議を行い、会議プログラムを検討した。

○医薬分業対策委員会

田尻 泰典、豊見 敦、吉田 力久、渡邊 大記、亀井美和子

○生涯教育委員会

乾 英夫、宮崎長一郎、亀井美和子、島田 光明

4. プログラム

地域での事業展開を図るにあたり、「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」の説明、昨年度事業で作成した「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」の活用及びスケジューリング等をプログラムとし、都道府県薬剤師会の担当者へ伝達等を行った。(資料 2)

また、会議後には会議の実施趣旨等を踏まえ、都道府県薬剤師会に対して「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」活用した研修機会の充実を依頼した。(資料 3)

なお、同日の配布資料を都道府県薬剤師会に送付するとともに、内容について映像収録を行い、都道府県薬剤師会での伝達等を目的に Web で配信を行った。(資料 4)

薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議 次第

日程：9月1日（日）12：00～16：20

会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター ホール4A

司会：吉田 力久（日本薬剤師会 常務理事）

12:00～12：05 開会挨拶（5分）

日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

12:05～12：25 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」説明（20分）

日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦

12:25～13：05 都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み（40分）

日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子

13:05～13：45 「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」概要説明（40分）

日本薬剤師会 理事 高松 登

13:45～14：00 休憩（15分）

14:00～15：30 『薬学的視点による患者対応・処方提案』
～PEACS を活用した服薬指導と薬学管理～（90分）

兵庫医科大学病院 薬剤部長 木村 健 氏

15:30～16：10 「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」を活用したスケ
ジュールリング（40分）

日本薬剤師会 常務理事 宮崎 長一郎

16:10～16：20 総括 閉会の辞（10分）

日本薬剤師会 副会長 乾 英夫

※敬称略

資料3 薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバスの活用について（依頼）

日 薬 業 発 第 194 号
令 和 元 年 9 月 18 日

都道府県薬剤師会 担当役員 殿

日 本 薬 剤 師 会
副会長 田尻 泰典

薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバスの活用について（依頼）

平素より本会会務にご高配を賜り御礼申し上げます。

さて、本会では昨年度より「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」を実施しており、本年9月1日には都道府県薬剤師会の医薬分業担当者及び生涯学習担当者等に参集頂き、薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議を開催いたしました。

同会議では、本事業の趣旨説明をするとともに、昨年度作成した「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」について、都道府県薬剤師会等の研修計画に当該内容を反映していただけるよう依頼申したところです。

本シラバスは、薬剤師業務のさらなる充実、かかりつけ機能の向上に繋がる実践的な研修が全国で行われるよう、研修内容の指標として作成しました。これは、ある定まった形式の研修を全国で統一的に実施することを求めるものではなく、研修の実施主体（都道府県薬剤師会等）が各々に計画・実施されている研修事業に本シラバスの項目や内容を組み入れる形で、研修機会の充実が図られることを目的としております。

シラバスの第Ⅰ章は、薬剤師としての倫理観・心構えや社会的背景、第Ⅱ章は具体的な知識・技能に関する事項となっています。第Ⅲ章は、第Ⅰ章・第Ⅱ章で身につけたものを総合的に発揮する場面として、疾患を切り口に、研修を通じて身につけていくべき事項を整理しています。本年9月の全国会議では、第Ⅲ章の研修企画の参考として、兵庫医科大学病院の木村健氏から疾患別の薬学管理のポイントについて解説いただきました。貴会における研修の企画にあたっては、疾患別のガイドラインや様々な書籍等を参考にされ、受講者自身が学びの場を作るような形で取り組んでいただきたいと思います。

本シラバスには、受講者の習熟度やその評価については含めておりません。また、同会議の際にお示しした実施スケジュールは例示であり、本シラバスの内容

を参考に、地域医療の実情に応じた実践力を身につける研修として、貴会で計画・実施されている研修について内容の充実を図っていただきたいとの趣旨であるにご理解ください。

また、本事業の実施にあたっては、日本病院薬剤師会にもご協力いただき、薬局薬剤師と病院薬剤師が一体となって、地域医療の向上に繋がる研修が計画できるよう共に検討を進めております。地域医療の担い手が自ら、こうした実践的な研修を企画・実施することを通じて、地域医療の質の向上に繋がることを期待しています。

このほか全国会議では、薬剤師業務のエビデンス化に向けた取り組みとして、都道府県薬剤師会等事業の研究計画化、論文化についても説明いたしました。当日の会議資料（9月5日付、事務連絡）をご参照いただくとともに、当会へご照会いただければ参考書籍の紹介も行います。

都道府県薬剤師会におかれましては、本シラバス及び全国会議の趣旨をご理解いただくとともに、薬剤師に向けた研修の充実に向け、ご高配のほどお願い申し上げます。

なお、来年1月12日及び13日には、本シラバスを踏まえて、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有や、次世代指導者の育成を目的として、昨年度に引き続き「次世代薬剤師指導者研修会」を開催します。詳細については、改めてご案内申し上げます。

資料4 令和元年度薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議の資料送付について

事務連絡
令和元年9月5日

都道府県薬剤師会
担当事務局 御中

日本薬剤師会
医薬・保険課

令和元年度薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議の
資料送付について

平素より、本会会務に格段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年9月1日に開催いたしました標記会議の当日配布資料を下記のとおりお送りいたしますので、ご査収のほどお願い申し上げます。

また、当日の講義の収録映像（講義4を除く）の確認もできますので、地域薬剤師会等に伝達する場合のご参考ください。

なお、参考資料（平成30年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業報告書及び研修シラバス）につきましては省略いたしますことを申し添えます。

記

○令和元年度薬剤師のかかりつけ機能強化に向けた全国会議 次第

○出席者名簿

○資料

1. 「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業」説明
2. 都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み
都道府県薬剤師会事業の論文化への取り組み（ノート入り）
3. 「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」概要説明
4. 「薬学的視点による患者対応・処方提案」
～PEACSを活用した服薬指導と薬歴管理～
5. 「薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバス」を活用した
スケジューリング

○収録映像（令和元年11月末までの公開予定）

<https://vimeo.com/nichiyaku/190901jpa/>

（パスワード：jpa0901）

以上

III 指導者研修会（次世代薬剤師指導者研修会）の開催

1. 指導者研修会の開催方針・枠組みの検討（指導者研修委員会）

指導者研修会は、地域における事業の企画実行を担う指導的立場の者としての資質向上や研修方略の習得等を図るとともに、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有等を目的として開催することとした。

また、指導者研修会の開催方針及び枠組み（日程・受講者・名称）は昨年度事業からの継続性を考慮しつつ、以下のような点に考慮して決定した。

〈日程〉

研修時間については昨年度と同様に連続した2日間とした。1日目は薬剤師を取り巻く現状について理解を深め、本研修の重要性を共有した上で、避妊など性に関する知識の向上及び患者の心理状況に応じた情報提供や糖尿病の発症予防等を含めた糖尿病患者の継続的な薬学管理に関するプログラムとした。続く2日目には、入退院時の薬薬連携などを踏まえたがん患者の継続的な薬学管理に関するプログラムとした。

これらのプログラムを一貫して受講することにより、地域における薬局ビジョンの実現に向けた取り組みや地域における薬薬連携など、地域の指導的立場を担い、地域医療のより一層の充実につなげることででき得る薬剤師の育成を目指した。

開催日程については研修時間が確保できかつ薬剤師が参加しやすい日曜日を含む連休に設定することとし、1月12日（日）～13日（月・祝）とした。

〈受講者〉

指導者研修会の受講者は、昨年度と同様に原則40歳代までの薬剤師とした。これは、「患者のための薬局ビジョン」が示す理念等を踏まえ、地域包括ケアシステムの実現（2025年目途）を見据えながら、地域の医療政策の変化や将来構想などの政策的背景も考慮した上で、将来の指導的立場を担う若い世代を牽引していく者の育成という点を考慮したものである。

また、プログラム中に入退院時の薬薬連携を含むことから病院薬剤師及び薬局薬剤師のバランスを考慮した。

募集方法は、都道府県薬剤師会からの推薦枠（病院薬剤師1名、薬局薬剤師1名）、日本保険薬局協会からの推薦枠（10名程度）、日本チェーンドラッグストア協会からの推薦枠（10名程度）及び一般受講者（若干名）とした。

〈名称〉

指導者研修会の趣旨及び昨年度からの継続性を考慮し、「次世代薬剤師指導者研修会」とした。

これらの開催方針・枠組みを決定した上で、担当役員を中心として事業実施委員会にて研修会プログラムの案を検討し、令和元年12月17日に開催した指導者研修委員会において研修会プログラムを決定した。

また、プログラムに応じた2つのワーキンググループを設置し、具体的な検討を行った。

■ワーキンググループ1：

- テーマ 薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導
- ・総論
 - ・生活習慣病における薬剤師のかかわり方
 - ・がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方

■ワーキンググループ2：

- テーマ 薬剤師が伝える性と避妊

2. 研修会内容の検討（ワーキンググループ）

各ワーキンググループでは、各日のプログラムについての具体的なプログラムの検討を行った。

また受講者には、研修内容の理解をより深めるとともにワークショップや討議がスムーズに行えるよう、事前課題（いわゆる予習）を課すこととした【資料2】。

1日目

テーマ	薬剤師が伝える性と避妊
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・性と避妊に関連する医学薬学的な事項及び適切な避妊法等について理解する。 ・性と避妊に関連して薬剤師に求められる関わり方、患者の心理状況に応じた対応を理解する。
形式	講義
事前課題	—

テーマ	薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（総論）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・薬機法改正の観点を踏まえ、調剤の概念と継続的な薬学管理について理解する。
形式	講義
事前課題	—

テーマ	薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（生活習慣病における薬剤師のかかわり方）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な薬学管理の考え方と生活習慣病治療を行う際の情報把握・指導について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。 ・高血圧の治療を行う患者への対応を理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。 ・糖尿病の予防・栄養指導と薬物治療の概要、継続的な薬学管理について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。

形式	講義及びワークショップ
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病治療ガイド 2018-2019（日本糖尿病学会） ・糖尿病診療ガイドライン 2019（日本糖尿病学会） ・薬剤師による糖尿病対策ガイド（編著：日本薬剤師会、日本くすりと糖尿病学会）

2日目

テーマ	薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの薬物療法の基本を理解する。シラバスⅢ章の展開例を理解する。 ・病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれが求める薬業連携と事例を知り、具体的な展開をイメージする。 ・大腸がんの症例を基に薬学的アプローチを学び、薬業連携をふまえた薬剤師のかかわりについて理解する。
形式	講義及びグループディスカッション
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大腸癌治療ガイドライン（大腸癌研究会） ・臨床腫瘍薬学（編著：日本臨床腫瘍薬学会） ・処方せんをヒントに！がん患者サポータティブケア（著：日本臨床腫瘍薬学会）

参考まで、指導者研修会プログラムと研修シラバスとの関連を図4（図中赤枠囲みの項目が今回の指導者研修会に含まれる研修内容である）に示す。

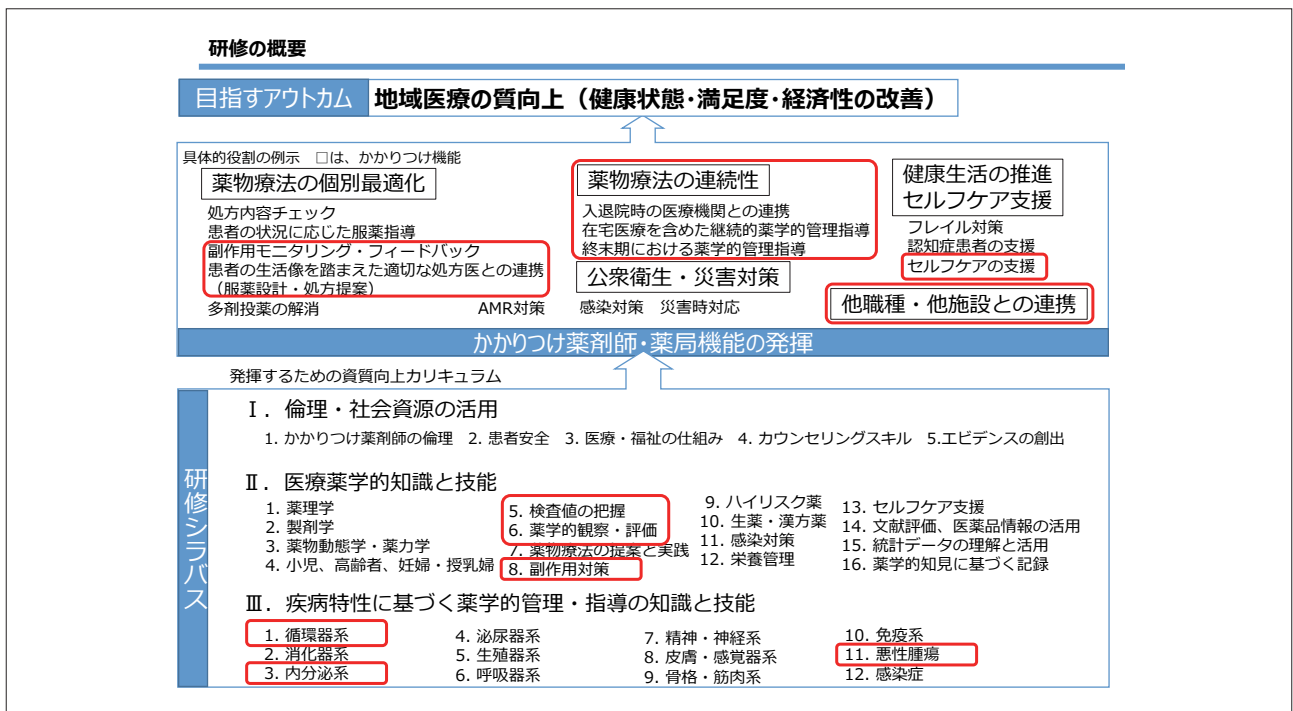


図4 研修シラバスと指導者研修会プログラムの関連

3. 都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげる方策の検討（指導者研修委員会）

指導者研修会を都道府県薬剤師会等での取り組みにつなげるため、昨年度と同様、受講者への事後課題を課すこととした（事後課題の詳細は4-（5）参照）。

資料5 次世代薬剤師指導者研修会 受講者事前課題

令和元年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業 次世代薬剤師指導者研修会 事前課題および受講にあたっての留意点

1. 事前課題について

本研修会では、主に下記の項目を研修します。以下のような資料等（以下①～⑥）にお目通しの上、受講をお願いします。資料を提出いただく必要はありません。

研修項目：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導
（生活習慣病における薬剤師のかかわり方）

A-2 患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導 ～糖尿病患者対応 WS～

関連資料

① 糖尿病治療ガイド 2018－2019

日本糖尿病学会ホームページ

HOME > 糖尿病教育関連・各種活動 > 糖尿病治療ガイド 2018－2019

http://www.jds.or.jp/modules/education/index.php?content_id=11

（一部のみ電子版が公開）

② 糖尿病診療ガイドライン 2019

日本糖尿病学会ホームページ

HOME > 刊行物 > 糖尿病診療ガイドライン 2019

http://www.jds.or.jp/modules/publication/index.php?content_id=4

（電子版が無料公開されています）

③ 薬剤師による糖尿病対策ガイド（じほう）

編著：日本薬剤師会、日本くすりと糖尿病学会

研修項目：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導
（がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方）

B-3 継続的な薬学管理～がん薬物療法を例に～「症例から学ぶ大腸癌の治療と副作用

への薬学的アプローチ」関連資料

④ 大腸癌治療ガイドライン

大腸癌研究会

トップページ > 大腸癌治療ガイドライン > 大腸癌治療ガイドライン 2019年版

http://www.jscrr.jp/guideline/2019/index_guide.html

⑤ 臨床腫瘍薬学（じほう）
編集：日本臨床腫瘍薬学会

⑥ 処方せんをヒントに！がん患者サポーターケア（じほう）
著：日本臨床腫瘍薬学会

2. 以下についてあらかじめご了承ください。

- 本研修会は、厚生労働省令和元年度薬剤師生涯教育推進事業の一環として実施しており、事業終了時（令和元年度末）に事業内容について報告書を作成し、関係者に配付いたします。
- 事業の性格上、受講者名簿（県名・氏名等）について、報告書に掲載いたしますのでご了承ください。研修会の模様は、記録用として撮影いたします。講師だけではなく受講者の方も撮影することがありますのでご承知おきください。

3. その他連絡事項

- 受付開始時間、場所について
日 時：1月12日（日）9：30～（研修会10：00開始）
受付場所：TKP新橋カンファレンスセンター ホール15D
（東京都千代田区内幸町1丁目3-1 幸ビルディング15階）
（都営地下鉄三田線「内幸町」駅 日土地内幸町ビル口より徒歩1分、
JR「新橋」駅 日比谷口 徒歩7分）
※ 別紙3の「アクセス方法」を必ずご確認のうえ、お間違いのないようにお越しください。
- 懇親会の会費（5,000円）は、研修会1日目の受付時に徴収させていただきますので、つり銭が生じないようにご用意をお願いいたします。
- 長時間にわたる研修会となりますので、上着・ネクタイ等を着用せず、軽装にてご出席いただいで結構です。
- 研修会両日とも、昼食の弁当を用意いたします。
- 日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師シール（6点）は、研修会2日間通して出席された方のみに、2日目の最後に配付する予定です。

4. 研修会の開催

(1) 研修会概要

■研修会名称：

次世代薬剤師指導者研修会

■目的：

都道府県薬剤師会における指導的立場を担う者の資質向上や、研修シラバスに基づき実施する地域での研修の方略や知識・技能を共有することにより、薬剤師のかかりつけ機能の強化及び専門性の向上に資する知識・技能の習得、能力の維持・向上を目的とする。

■主催：

公益社団法人 日本薬剤師会

■日時：

令和2年1月12日（日）・13日（月・祝）

■会場：

TKP 新橋カンファレンスセンター ホール 15D
東京都千代田区内幸町1丁目3-1 幸ビルディング

(2) 研修会プログラム及び講師、ファシリテーター

指導者研修委員会や各ワーキンググループでの検討の上、決定されたプログラム及び講師は以下のとおり（敬称略）。時間割等については研修会次第を参照のこと【資料6】。

【1日目】

	演題・講師
講義1	薬剤師を取り巻く社会的状況 渡邊 大記（日本薬剤師会 常務理事）

テーマ：薬剤師が伝える性と避妊

	演題・講師
講義2	緊急避妊、避妊法について 宮国 泰香（日本産婦人科医会 幹事）
講義3	薬局薬剤師の緊急避妊薬、避妊への対応 亀井 美和子（日本薬剤師会 常務理事）

テーマ：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（総論）

	演題・講師
講義 4	調剤の概念の変遷と調剤指針（第 13 改訂以降）の改訂内容から継続的な薬学管理を考える 清水 秀行（日本薬剤師会 調剤業務委員会委員長）

テーマ：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（生活習慣病における薬剤師のかかわり方）

	演題・講師
講義 5	継続的な薬学管理 ―高血圧症を例として― 出石 啓治（日本薬剤師会 調剤業務委員会副委員長）
講義 6	糖尿病患者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力 ～糖尿病の予防（栄養・運動）と薬物治療～ 朝倉 俊成（日本くすりと糖尿病学会・新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室教授）
ワーク ショップ	糖尿病患者の継続的薬学管理 篠原 久仁子（日本くすりと糖尿病学会・フローラ薬局）

ワークショップファシリテーター：

日本くすりと糖尿病学会

朝倉 俊成、小林 庸子（杏林大学医学部付属病院薬剤部）、井上 岳（北里大学薬物治療学Ⅲ講師）、佐竹 正子（クラフト顧問）、大木 一正（クリーン薬局）、堀井 剛史（北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター臨床薬学大講座薬物治療学Ⅰ）

日本薬剤師会 医薬分業対策委員会

豊見 敦、渡邊 大紀、亀井 美和子、高松 登、山田 武志、村杉 紀明、森中 裕信、羽尻 昌功、小屋敷 淳子、木原 太郎

【2日目】

テーマ：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方）

	演題・講師
講義 7	抗がん剤の基礎知識 松井 礼子（日本臨床腫瘍薬学会・国立がん研究センター東病院）
講義 8	臨床検査値からわかることとその活用方法 田中 康裕（日本臨床腫瘍薬学会・等潤病院薬剤部）
講義 9	薬局における副作用マネジメント 金澤 裕子（日本臨床腫瘍薬学会・保生堂薬局）

講義 10	病院薬剤師が考える薬業連携 荒木 隆一（日本病院薬剤師会）
講義 11	薬局薬剤師が考える薬業連携～長崎県版 PBPM の現状をもとに～ 中村 優（長崎県薬剤師会）
ワーク ショップ	継続的な薬学管理～がん薬物療法を例に～ 「症例から学ぶ大腸癌の治療と副作用への薬学的アプローチ」 総合司会：大塚 昌孝（日本臨床腫瘍薬学会・つくし薬局） 症例提示：田中 将貴（国立がん研究センター東病院）

ワークショップファシリテーター

日本臨床腫瘍薬学会

松井 礼子、金澤 裕子、田中 康裕、長久保 久仁子（ミキ薬局 日暮里店）

日本薬剤師会医薬分業対策委員会

村杉 紀明、羽尻 昌功、小屋敷 淳子、木原 太郎、山田 武志、森中 裕信

（3）研修会の開催

都道府県薬剤師会、日本保険薬局協会、日本チェーンドラッグストア協会から推薦された受講者と一般受講者が研修会を受講した。受講者数は以下のとおり。

都道府県薬剤師会推薦枠 90 名

日本保険薬局協会推薦枠 7 名

日本チェーンドラッグストア協会推薦枠 11 名

一般募集 3 名（申込 4 名、1 名体調不良による欠席）

計 111 名 【資料 7】

研修会はプログラムどおりに進行し、ワークショップ及びグループ討議では受講者による活発な議論が交わされた。各講義及びワークショップの資料は【巻末資料 1】のとおり。

全員が全日程を受講し、111 名に次世代薬剤師指導者研修会の修了証を交付した。

研修会の運営リソース等については【巻末資料 2】のとおり。ワークショップ形式を含むことから座席は島型配置とし、地域性を特段考慮する必要がないことから原則グループに同一地域の受講者が含まれないよう配置した。

（4）受講者への事後課題

研修会 2 日目プログラム「テーマ：薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬学的知見に基づく指導（がんの薬物療法における薬剤師のかかわり方）」では、がん薬物療法における外来・入退院時の連携について病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれの立場から講義を行ったことを踏まえ、事後課題として都道府県下で取り組まれている外来・入退院時の医療機関と薬局の連携の事例（都道府県薬剤師会推薦者）や自身で経験した医療機関と薬局間の薬業連携の事例（関係団体、一般受講者）の提出を求めた。【資料 8】。

事後課題の作成を通じて、受講者が都道府県下で取り組まれている薬業連携に理解を深め、

優良事例の横展開や地域での薬業連携の推進につながることを期待した。

なお、受講者から提出された事後課題については、本報告書の巻末資料3に掲載している。



写真1 講義の様子



写真2 ワークショップの様子（1日目）



写真3 ワークショップの様子（2日目）



写真4 修了証交付の様子

資料6 出席者名簿

令和元年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業
(令和元年度薬剤師生涯教育推進事業) 次世代薬剤師指導者研修会

日時：令和2年1月12日(日)

同13日(月・祝)

場所：新橋カンファレンスセンター ホール15D

※敬称略

都道府県薬剤師会							
都道府県	座席番号	氏名	役職	座席番号	氏名	役職	
1	北海道	1	谷岡 哲	病診委員会委員	54	織田 朋子	
2	青森	2	柿本 拓二	理事	55	石澤 徳子	生涯学習委員会委員医療安全管理部
3	岩手	3	八巻 貴信	常務理事	56	金野 琴子	岩手医科大学附属病院医療安全管理部
4	宮城	4	佐々木 欣吾	社会保険委員会委員	57	大内 友季江	薬学教育研修特別委員会委員
5	秋田	5	大越 雄一郎	本荘由利支部幹事長	58	遠藤 征裕	大曲仙北支部幹事
6	山形	6	熊木 誠吾	生涯学習・研修委員会委員	59	須藤 迪依	アンチ・ドーピング委員会委員
7	福島	7	馬場 圭一郎	理事	60	渡邊 拓郎	大原綜合病院薬剤科主任
8	茨城	8	鈴木 弘道	学術研修委員	61	花香 淳一	
9	栃木	9	村井 加代子	常務理事	62	蘇原 由貴	理事
10	群馬	10	高野 由博	常務理事	63	橋場 弘武	理事
11	埼玉	11	政氏 良太	昭和中央薬局	64	矢野 俊介	埼玉医科大学総合医療センター係長
12	千葉	12	竹田 恒一	理事			
13	東京	13	田極 淳一	理事	65	丸山 修平	厚生中央病院
14	神奈川						
15	新潟	66	宮川 哲也	常務理事	14	長澤 貴明	理事
16	富山	67	前田 憲邦	薬局機能委員会委員長	15	鶴居 勝也	
17	石川	68	嶋田 努	県病薬常任理事	16	塩谷 明美	理事
18	福井	76	水上 弘樹	理事	17	前田 康裕	
19	山梨	77	遠藤 晃	生涯学習委員	18	一瀬 明信	生涯学習委員
20	長野	78	網野 一真	情報学術委員会委員	19	小林 志津子	薬局経営委員会委員
21	岐阜	79	高橋 竜也	薬局委員会職能対策グループ委員	20	河合 琢丸	薬局委員会社会保険グループ委員
22	静岡	80	安達 士郎	常務理事	21	松永 敏広	職能対策委員会副委員長
23	愛知	81	小原 博一	理事			
24	三重	82	水谷 賀典	副会長	22	高井 靖	理事
25	滋賀	83	上西 佑弥		23	東 俊之	
26	京都	84	山本 尚史	薬局業務委員会委員	24	大林 巧志	学術研修委員会委員
27	大阪	86	原 伸輔		25	篠原 裕子	理事
28	兵庫	88	千葉 一雅	理事	26	志方 敏幸	理事
29	奈良	90	高橋 恵美	理事	27	西澤 英之	奈良県総合医療センター薬剤部
30	和歌山	92	大桑 邦稔	常務理事	28	西村 知恭	
31	鳥取	94	松本 一宏	医薬分業対策委員	37	鍛冶川 友晴	
32	島根	95	山田島 智治	常務理事	38	園山 智宏	県病薬理事
33	岡山	96	須江 和由	県民啓発事業委員会委員	39	猪田 宏美	地域包括ケア対策委員会委員
34	広島	97	平本 敦大	常務理事	40	荒川 隆之	
35	山口	98	佐藤 真也	常務理事	41	家本 亜希子	理事
36	徳島	99	板東 篤史		42	座間味 義人	
37	香川	100	矢野 貴久	分業対策部員	43	尾崎 典子	生涯教育部員
38	愛媛	101	今井 靖	理事	44	飛鷹 範明	かかりつけ薬局委員会委員
39	高知	102	伊藤 悠人	理事	45	八木 祐助	常務理事
40	福岡	103	入江 利行	常務理事	46	連石 信	医療保険委員、生涯学習委員
41	佐賀	104	久保 陽平	学術・疾病委員会	47	飛田 修康	地域連携部会
42	長崎	105	寺田 義和	理事	48	坂元 利彰	
43	熊本	49	久保田 忍	地域医療委員会委員	106	濃田 政司	地域医療委員会委員
44	大分	50	龍田 涼佑		107	仲矢 侑希子	
45	宮崎	51	関屋 裕史	医薬分業対策委員	108	榎園 真	医療保険委員
46	鹿児島	52	御手洗 洋一	常務理事	109	佐多 照正	常務理事
47	沖縄	53	吉田 洋史	理事	110	永井 賢作	

一般参加		
都道府県	座席番号	氏名
北海道	69	石丸 竜大
東京	71	浅野 達也
栃木	73	川村 岳弘
神奈川	75	能登 将義
日本保険薬局協会		
	29	中村 志理
	31	酒井 理恵
	33	錦 夕佳
	35	谷口 雅洋
	70	塚越 香里
	72	角 佳亮
	74	高橋 渉
日本チェーンドラッグストア協会		
	30	久保田 純平
	32	熊谷 稔
	34	大道 健吾
	36	本橋 勝
	85	今井 優介
	87	小宮 淳
	89	桑原 義朗
	91	有賀 聡美
	93	小林 隆
	111	鈴木 正和
	112	檜垣 真理

日本薬剤師会	
副会長	乾 英夫
副会長	森 昌平
副会長	田尻 泰典
常務理事	島田 光明
常務理事	亀井 美和子
常務理事	吉田 力久
常務理事	渡邊 大記
常務理事	豊見 敦
理事	高松 登

日本薬剤師会 医薬分業対策委員会 (WGファシリテーター)	
委員長	山田 武志
副委員長	村杉 紀明
委員	森中 裕信
委員	羽尻 昌功
委員	小屋敷 淳子
委員	木原 太郎

資料7 研修会プログラム

令和元年度薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業 次世代薬剤師指導者研修会プログラム

会場: TKP新橋カンファレンスセンター ホール15D

1日目(1月12日・日)				
ねらい				
	10:00~10:05	5分		開会挨拶
・参加者が各地域での今後の展開をイメージしながら本研修を受講できるよう、本研修会の趣旨を理解する。	10:05~10:20	15分	講義	趣旨説明
・医薬分業の現状や薬機法改正など薬剤師をとりまく社会的状況について理解し、本研修の重要性を理解する。	10:20~11:05	45分	講義	薬剤師を
ねらい				
テーマ: 薬剤師が伝える性と避妊				
・性と避妊に関連する医学薬学的な事項及び適切な避妊法等について理解する。	11:05~12:05	60分	講義	緊急避妊
・性と避妊に関連して薬剤師に求められる関わり方、患者の心理状況に応じた対応を理解する。	12:05~12:35	30分	講義	薬局薬剤
	12:35~13:35	60分	昼食	
ねらい				
テーマ: 薬機法改正を踏まえた患者情報の継続的な把握と薬				
・薬機法改正の観点を踏まえ、調剤の概念と継続的な薬学管理について理解する。	13:35~14:05	30分	講義	調剤の概 薬学管理
・継続的な薬学管理の考え方や生活習慣病治療を行う際の情報把握・指導について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。			A 生活習慣病における薬剤師のかかわり	
・高血圧の治療を行う患者への対応を理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。	14:05~14:35	30分	A-1 講義	継続的な
			A-2 患者情報の継続的な把握と	
	14:35~15:05	30分	A-2-1 講義	糖尿病患 ~糖尿病
	15:05~15:20	15分	休憩	
・糖尿病の予防・栄養指導と薬物治療の概要、継続的な薬学管理について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。	15:20~17:50	150分	A-2-2 WS	糖尿病患
	18:20~20:00	100分	懇親会	
2日目(1月13日・月祝)				
ねらい				
	8:45		開場	
			B がんの薬物療法における薬剤師のかか	
			B-1 がんの病態と治療	
・がんの薬物療法の基本を理解する。シラバスⅢ章の展開例を理解する。	9:15~10:00	45分	B-1-1 講義	抗がん剤
	10:00~10:45	45分	B-1-2 講義	臨床検査
	10:45~11:00	15分	休憩	
	11:00~11:45	45分	B-1-3 講義	薬局にお
	11:45~12:45	60分	昼食	
			B-2 がん薬物療法における外来	
・病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれが求める薬業連携と実例を知り、具体的な展開をイメージする。	12:45~13:15	30分	B-2-1 講義	病院薬剤
	13:15~13:45	30分	B-2-2 講義	薬局薬剤
・大腸がんの症例を基に薬学的アプローチを学び、薬業連携をふまえた薬剤師のかかわりについて理解する。	13:45~15:30	105分 (途中休憩15分)	B-3 WS	
			継続的な 「症例から	
	15:30~15:40	10分	課題説明	
	15:40~16:00	20分	総括	
	16:00~16:05	5分	閉会挨拶	

※敬称略
司会:吉田力久(日本薬剤師会 常務理事)

演題	講師
	田尻 泰典(日本薬剤師会 副会長)
	豊見 敦(日本薬剤師会 常務理事)
取り巻く社会的状況	渡邊 大記(日本薬剤師会 常務理事)

演題	講師
避妊法について	宮国 泰香(日本産婦人科医会 幹事)
師の緊急避妊薬、避妊への対応	亀井 美和子(日本薬剤師会 常務理事)

演題	講師
学的知見に基づく指導	
念の変遷と調剤指針(第13改訂以降)の改訂内容から継続的な を考ふる	清水 秀行(日本薬剤師会 調剤業務委員会委員長)
方	
薬学管理 —高血圧症を例として—	出石 啓治(日本薬剤師会 調剤業務委員会副委員長)
薬学的知見に基づく指導 ~糖尿病患者対応 WS~	
者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力 の予防(栄養・運動)と薬物治療~	朝倉 俊成(日本くすりと糖尿病学会・新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室教授)

者の継続的薬学管理	篠原 久仁子(日本くすりと糖尿病学会・フロー薬局) ファシリテーター: <日本くすりと糖尿病学会> 朝倉俊成、小林庸子(杏林大学医学部付属病院薬剤部)、井上岳(北里大学薬物治療学Ⅲ講師)、 佐竹正子(クラフト顧問)、大木一正(クリーン薬局)、 堀井剛史(北里大学薬学部臨床薬学研究・教育センター臨床薬学大講座薬物治療学Ⅰ) <日本薬剤師会医薬分業対策委員会> 豊見敦、渡邊大記、亀井美和子、高松登、山田武志、村杉紀明、森中裕信、羽尻昌功、 小屋敷淳子、木原太郎
-----------	--

	司会:島田光明(日本薬剤師会 常務理事) 開会挨拶:山本信夫(日本薬剤師会 会長) 閉会挨拶:田尻泰典(日本薬剤師会 副会長)
--	---

演題	講師
わり方	
の基礎知識	松井 礼子(日本臨床腫瘍薬学会・国立がん研究センター東病院)
値からわかることとその活用方法	田中 康裕(日本臨床腫瘍薬学会・等潤病院薬剤部)
ける副作用マネジメント	金澤 裕子(日本臨床腫瘍薬学会・保生堂薬局)
・入退院時の連携	
師が考える薬業連携	荒木 隆一(日本病院薬剤師会)
師が考える薬業連携 ~長崎県版PBPMの現状をもとに	中村 優(長崎県薬剤師会)
薬学管理~がん薬物療法を例に~ 学が大腸癌の治療と副作用への薬学的アプローチ」	総合司会:大塚 昌孝(日本臨床腫瘍薬学会・つくし薬局) 症例提示:田中 将真(国立がん研究センター東病院) ファシリテーター: <日本臨床腫瘍薬学会> 松井礼子、金澤裕子、田中康裕、長久保久仁子(ミキ薬局 日暮里店) <日本薬剤師会医薬分業対策委員会> 村杉紀明、羽尻昌功、小屋敷淳子、木原太郎、(山田武志)、(森中裕信)
	吉田 力久(日本薬剤師会 常務理事)
	田尻 泰典(日本薬剤師会 副会長)
	乾 英夫(日本薬剤師会 副会長)

～参加者の皆様へ

次世代薬剤師指導者研修会「事後課題」ご提出のお願い

今回の「次世代薬剤師指導者研修会」では、外来・入退院時の医療機関及び薬局との薬薬連携の向上を目指し、「病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれが求める薬薬連携と実例を知り、具体的な展開をイメージする」をテーマとして、研修会2日目には病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれの立場から講義を行い研修いただきました。

つきましては、事後課題として下記のご提出をお願いいたします。

記

1. 事後課題の内容について

【都道府県薬剤師会よりご参加の方】

所属する薬剤師会とご相談の上、都道府県下で取り組まれている外来・入退院時の医療機関と薬局の連携の事例を数例ご報告ください。参加者2名の場合は、相談の上で一括して事例報告、または、それぞれで異なる事例を報告、のいずれでも結構です。

【一般のご参加、関係団体からのご推薦によりご参加の方】

自身で経験した医療機関と薬局間の薬薬連携の事例を1つご報告ください。なお、事例等の経験がない場合はこうした連携を実施する上で課題となっている点をご報告ください。

2. 事後課題の報告要項等の入手について

後日、下記の日本薬剤師会ホームページに掲載予定ですので、ご確認の上でご報告をお願いします。

【掲載場所】

HOME>学術大会・研修会>研修会>令和元年度 薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業（厚生労働省令和元年度薬剤師生涯教育推進事業）次世代薬剤師指導者研修会開催一般参加者募集のご案内

<https://www.nichiyaku.or.jp/conference/other/other.html>

※ 掲載した際は、都道府県薬剤師会、関係団体にご案内させていただきます。（一般募集の方は個別にメールにてご案内させていただきます。）

3. 提出期限、提出先

令和2年2月21日（金）

送付先メールアドレス：jpa20190210_11@nichiyaku.or.jp

4. その他

事後課題については、取りまとめを行い報告書へ掲載しますので、事後課題への個人情報等の記載についてはご留意のほどお願い申し上げます。

以上

IV 事業の評価

研修効果の測定、研修プログラムの評価を目的として、研修会後に Web で受講者アンケートを実施した。

結果は以下のとおり。

■回答率

37% (41 / 111 人)

■勤務先比率

薬局が 56.1%、病院が 36.6%、ドラッグストア 4.9%、その他 2.4% であった。

■基本情報

男女比率：おおよそ、女性が 26.8%、男性が 73.2%

年齢比率：20 代が 2.4%、30 代が 48.8%、40 代が 39%。例外的に 50 代の受講も 9.8% あった。

■受講者アンケート結果

1. 本研修会への参加理由（複数回答可）

都道府県薬剤師会等からの推薦があった 85.4%、地域の研修の企画・指導に役立てたいから 34.1%、薬局ビジョンの実現に向けた行動を進めたいから 17.1% などであった。

2. 研修会運営・内容

本研修会運営等については、次の通りの回答結果であり、「適切」若しくは「はい」との回答が多くを占めた。

質問内容	「適切」もしくは 「はい」	どちらとも いえない	「不適切」もしくは 「いいえ」
日程の設定	35	5	1
全体の時間の長さ	26	11	4
進行	33	6	2
全体として	35	5	1
ワークショップにスムーズに参加できましたか	37	4	0
日常業務に活かそうですか	37	3	1

地域での実践に活かそうですか	33	6	2
地域の薬業連携に活かそうですか	33	6	2

3. 各セクションの設定された「ねらい」の達成度

本研修会で各セクションに設定した「ねらい」の達成度については、次の通りの回答結果であり、自己評価では「できた」「ある程度できた」との回答が多くを占めた。

ねらいの内容	できた	ある程度 できた	あまり できなかった	できなかった
医薬分業の現状や薬機法改正など薬剤師をとりまく社会的状況について理解し、本研修の重要性を理解する。	25	16	0	0
性と避妊に関連する医学薬学的な事項及び適切な避妊法等について理解する。	33	8	0	0
性と避妊に関連して薬剤師に求められる関わり方、患者の心理状況に応じた対応を理解する。	26	15	0	0
薬機法改正の観点を踏まえ、調剤の概念と継続的な薬学管理について理解する。	22	19	0	0
継続的な薬学管理の考え方と生活習慣病治療を行う際の情報把握・指導について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。	22	18	1	0
高血圧の治療を行う患者への対応を理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。	19	21	1	0
糖尿病の予防・栄養指導と薬物治療の概要、継続的な薬学管理について理解する。シラバスⅢ章の研修を行う際の手法を理解する。	25	15	1	0
がんの薬物療法の基本を理解する。シラバスⅢ章の展開例を理解する。	20	18	2	0
病院薬剤師・薬局薬剤師それぞれが求める薬業連携と事例を知り、具体的な展開をイメージする。	21	18	2	0
大腸がんの症例を基に薬学的アプローチを学び、薬業連携をふまえた薬剤師のかかわりについて理解する。	20	18	3	0

4. 研修会前後で自身の理解が深まったと感じるテーマ（複数回答可）

本研修会講義にて理解が深まったと感じるテーマについては、次の通りの回答結果であり、性と避妊に関連する講義で理解が深まったとの回答が多かった。

講義内容		回答数
講義 1	薬剤師を取り巻く社会的状況	13
講義 2	緊急避妊、避妊法について	31
講義 3	薬局薬剤師の緊急避妊薬、避妊への対応	31
講義 4	調剤の概念の変遷と調剤指針（第 13 改訂以降）の改訂内容から継続的な薬学管理を考える	14
講義 5	継続的な薬学管理 ー高血圧症を例としてー	7
講義 6	糖尿病患者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力 ～糖尿病の予防（栄養・運動）と薬物治療～	17
WS1	糖尿病患者の継続的薬学管理	23
講義 7	抗がん剤の基礎知識	26
講義 8	臨床検査値からわかることとその活用方法	15
講義 9	薬局における副作用マネジメント	20
講義 10	病院薬剤師が考える薬業連携	16
講義 11	薬局薬剤師が考える薬業連携 ～長崎県版 PBPM の現状をもとに～	11
WS2	継続的な薬学管理～がん薬物療法を例に～「症例から学ぶ大腸癌の治療と副作用への薬学的アプローチ」	25

5. 今後一層対応を深めていく必要があるテーマ（複数回答可）

本研修会で行った中で、今後一層対応を深めていく必要があるテーマについては、次の通りの回答結果であり、がん薬物療法における薬局での副作用マネジメント及び臨床検査値の活用で対応を深めていく必要があるとの回答が多かった。

講義内容		回答数
講義 1	薬剤師を取り巻く社会的状況	15
講義 2	緊急避妊、避妊法について	20
講義 3	薬局薬剤師の緊急避妊薬、避妊への対応	23
講義 4	調剤の概念の変遷と調剤指針（第 13 改訂以降）の改訂内容から継続的な薬学管理を考える	9

講義 5	継続的な薬学管理 ー高血圧症を例としてー	14
講義 6	糖尿病患者の薬物治療管理を継続的に行うために必要な視点と能力 ～糖尿病の予防（栄養・運動）と薬物治療～	18
WS1	糖尿病患者の継続的薬学管理	20
講義 7	抗がん剤の基礎知識	19
講義 8	臨床検査値からわかることとその活用方法	24
講義 9	薬局における副作用マネジメント	26
講義 10	病院薬剤師が考える薬薬連携	20
講義 11	薬局薬剤師が考える薬薬連携 ～長崎県版 PBPM の現状をもとに～	19
WS2	継続的な薬学管理～がん薬物療法を例に～ 「症例から学ぶ大腸癌の治療と副作用への薬学的アプローチ」	22

6. 今後の研修会で希望するテーマ

今後、本研修会を実施するにあたり希望するテーマについては、次のようなテーマが挙げられた。

- ・ 大腸癌以外での症例検討型の薬学的アプローチ
- ・ 心不全
- ・ 退院時カンファレンス
- ・ 在宅での薬剤師の役割
- ・ 緊急避妊薬の処方調剤等の流れ
- ・ 継続的な薬学的指導（服用期間中のフォロー）
- ・ 薬歴記載の方法
- ・ 認知症
- ・ 不眠症
- ・ 精神神経疾患（認知症・うつなど）
- ・ がん患者のレジメン解析
- ・ 分子標的薬の現状と未来
- ・ 将来の薬剤師像についてのワークショップ
- ・ 在宅での薬学管理
- ・ セルフメディケーション
- ・ 薬機法や調剤報酬からの薬剤師業界の歴史
- ・ 呼吸器疾患（気管支喘息・COPD等）と吸入指導
- ・ マネジメント及び薬薬連携

7. その他の意見など

- ・他の都道府県の取組みは参考になった。
- ・地域で同じ講習を行うとなると講師の選定などが困難な面がある。
- ・WEB や DVD 等で地域会員に周知することも必要でないか。
- ・継続的薬学管理として生活習慣病とがん薬物治療という、対応が異なる 2 ケースを取り扱ったことは有用であった。
- ・病院と薬局それぞれの立場からの薬薬連携の紹介があり、参考になった。(他 1 件)
- ・連休のため交通機関の確保が厳しいので、2 日目を少し早く終了すべき。
- ・普段、抗がん剤の指導をする機会も少なく参考になった。
- ・薬機法改正で明示された服薬サポートの重要性と薬剤師の使命を感じた。
- ・患者に還元できるよう様々なやり方で取り組みを広げたい。
- ・ワークショップでは他のグループの人とも意見交換をしたかった。(他 1 件)
- ・他の都道府県の病院及び薬局の先生方とディスカッションできて有意義だった。(他 1 件)
- ・講義時間が長く、十分なディスカッション時間がなかった。
- ・抗がん剤の知識にバラツキがあり、講義が非効率だったので e-ラーニングなどを利用して予習を徹底させるべき。
- ・内容について初歩的だった。(他 1 件)
- ・研修時間が長く、集中力が持たない。(他 1 件)
- ・基礎的な部分も講義を実施して、忘れていた部分を補えた。
- ・薬局勤務では病院のレジメンを扱うことが少ないので参考になった。

※その他の意見などについては、要約している。

■総評

研修会後に Web 調査でアンケートを回収したことから、回答率が 37% と低かった。

回答内容を分析すると、本研修会の各セクションに設定された「ねらい」は概ね達成「できた」「ある程度達成できた」との回答がほとんどであり、本研修会の目的は達成できたと考えられる。

特に今回研修内容を強化することとした点に関しては、

- ①病院及び薬局の各側面からの薬薬連携の実例が紹介され、業務に活用できる事例を収集することができ、また、対象とする疾患によって適切な関わり方が異なることも紹介されたため、今後の業務の参考として、実施される薬薬連携の充実につながることを期待される。
- ②糖尿病に関する研修は、薬物治療中の薬学管理だけでなく、疾患になる前の予防も含め、薬剤師の対応を深めていく必要のあるテーマであるとの評価を得ており、効果的な研修であったと考えられる。このような生活習慣病に関する研修内容は、薬物治療の領域だけでなく、栄養や運動も含めた予防の知識も必要となるため、セルフメディケーションの観点からも重要であるとともに、テーマとなる疾患領域も幅広いので、生活習慣病に関する内容の研修を充実させることが必要と考える。
- ③性と避妊については、薬剤師が関わる機会が少ない分野でもあるため、本研修内容が活用できることが示された。また、今後、緊急避妊薬の処方オンライン診療で実施された場

合に、性と避妊に関する十分な知識を持った薬剤師が、対面で患者に対応することが必要となるため、性と避妊を薬剤師が学ぶことは重要と考える。

また、今後の研修内容については、精神神経疾患（うつ、認知症、不眠症）、セルフメディケーション、在宅医療など多岐の項目にわたって要望が挙げられており、来年度以降に指導者研修会を実施する場合には、研修内容として検討する必要がある。

一方で、研修会運営等について「WS のディスカッション時間が短い」、「研修時間が長時間で集中力が持たない」といった意見が寄せられている。研修会運営・内容では、特に全体の時間については「適切」との回答が他の項目に比べて少なく、研修時間は今後検討の余地があると考えられる。

VI 今後の事業展開について（都道府県薬剤師会等における研修機会の充実）

本年度事業での成果を次年度以降、各都道府県薬剤師会の研修計画に反映し薬剤師への研修を充実していくことまでを含めた構想としている。

本年度実施した指導者研修会を受け、都道府県薬剤師会で実施する研修は、指導者研修会の伝達講習を意図するものではなく、昨年度作成した薬剤師のかかりつけ機能強化のための研修シラバスを活用して地域のリソース（人材等）を活用し、地域医療の実践に繋がる研修を数年間かけて企画・実施することを趣旨としている。そのため指導者研修会は、地域における研修会の企画実行を担う指導的立場の者としての資質向上や研修方略の習得等を図るとともに、地域における研修において到達目標とする知識・技能レベルの共有等を目的として開催した。

この研修が、地域の実情に応じた、地域医療の質の向上に繋がる実践的な研修として全国で展開されるよう、都道府県薬剤師会や関係団体等と本事業の趣旨を共有し、今後も継続的に連携・協働していきたい。

また、生活習慣病関連の知識を向上させることは、患者に対し安全で有効な薬物治療を提供し、服薬指導等の薬剤師の対応を充実させる上で必要であることから、健康づくりも含めかかりつけ薬剤師・薬局に求められる健康サポート機能を向上させるために、本事業の成果を薬剤師に向けた研修内容の充実に活用していくことが望ましい。

本会では来年度以降も、指導者研修会を必要に応じて開催しながら、継続的に都道府県薬剤師会での研修展開を支援していく予定である。指導者研修会を受講する次世代の指導的立場を担う若い世代と、現在の都道府県薬剤師会の事業運営を担う役員が一体となって、2025年に向け複数年をかけ、指導者研修会の成果を活用して地域に応じた研修を実施いただけるよう、また研修を通じて地域医療の質の向上が図られるよう、本会として取り組みを継続していきたい。